

国土交通大臣賞

大規模地物変化検出AIによる地理変化や紛争地域の分析活用

株式会社Ridge-i 柳原 尚史 氏、市來 和樹 氏、畠山 湧 氏

無償・安価な低解像度の光学衛星画像と、高価だが詳細な高分解能画像を組み合わせるAI(物体検出・変化検出)ソリューション「RIDGE DUAL AI」を開発。大局的な変化を高速で把握しつつ、詳細な変化検出が可能で、衛星データ利用負担を大きく減らすことに成功。すでに、国土地理院での地図更新業務や、NHKでのミャンマー紛争地域における被害状況の把握など、複数の官庁・企業の衛星分析に活用され、分析結果は地上波で放送された。

環境大臣賞

カタール政府環境省への海洋オイル漏れ検知サービス提供

スカパーJSAT株式会社 平田 大輔 氏 / 伊藤忠商事株式会社 荒巻 裕史 氏

スカパーJSAT株式会社は、伊藤忠商事株式会社と共同で、カタール環境省に対し、SAR衛星画像を活用した海上オイル漏れ検知サービスの提供を開始した。本検知サービスは、SAR衛星画像を用いて、海上のオイル漏れを検出するもの。その後、船舶から発信されるAIS(船舶自動識別装置)情報と組み合わせで解析し、オイル漏れのあった船舶を特定することが可能となっており、本サービスによりペルシャ湾沿岸の環境保護に貢献している。

防衛大臣賞

宇宙状況把握(SSA)システムの開発

宇宙航空研究開発機構 追跡ネットワーク技術センター

地球近傍のスペースデブリは増加の一途をたどっており、これらによる宇宙機の破壊等のリスクが高まり、宇宙開発利用の大きな問題となっている。本問題への取り組みにおいて、まずスペースデブリの存在、軌道情報を把握するための“宇宙状況把握(SSA: Space Situational Awareness)”が必要不可欠である。日本でもSSA活動に取り組む国の体制を構築しており、JAXAは本活動に貢献するため、これまでの知見を活かしたスペースデブリ観測・解析のためのシステムを新たに開発した。

宇宙航空研究開発機構理事長賞

「水」を推進剤とした推進機の軌道上作動成功

株式会社Pale Blue 浅川 純 氏

小型衛星の利用拡大において課題となる安全性・入手性・コストの3点を解決する水蒸気式推進機(水レジストジェットスラスタ)を開発し、商用衛星に搭載し軌道上作動に成功した。本推進機は、安全無毒で取り扱いやすく、最も豊富で入手性の良い「水」を推進剤としている。このため、従来の推進機に比べて、衛星の運用・保守・廃棄において大幅な安全性・取扱い性・低コストの向上を実現した。2023年3月の軌道上作動の成功を受け、成長市場の需要に答えるため生産技術開発拠点の立ち上げを進めている。本推進機の開発は、小型衛星の利用拡大に大きく貢献するとともに、宇宙開発の持続可能性の向上にも寄与するものである。

選考委員会特別賞

海と宇宙、測位・センシング・通信技術で前進する漁業を日本から

オーシャンソリューションテクノロジー株式会社 水上 陽介 氏

当社が提供する「トリトンの矛」は、世界の海で活躍する漁業者に対して、GNSS測位により自船の航跡を記録し、センシングによって得られた海況情報の提供、漁獲情報の陸上への伝達と船員の安全確保として通信衛星を活用したサービスを展開している。取得された航跡を元に、AIを活用した水産資源評価に資するデータ生成を実行し、測位データを担保として確実な産地証明を消費者へ届けることで、漁業者と消費者を結びつけている。

衛星データを活用した漏水リスク管理業務システムの開発・提供

株式会社天地人 櫻庭 康人 氏

「天地人コンパス 宇宙水道局」は、宇宙とAI技術を融合した水道管の漏水リスク管理業務システムである。複数の衛星データ、水道管路情報、漏水履歴、オープンデータを組み合わせ、約100m四方の地区ごとに精密な漏水リスクをAIが評価する。このシステムを活用することで、水道事業の効率的・効果的な水道管のメンテナンス及び有収率の向上が実現可能。既に4つの水道事業者に導入され、その効果を実証している。

超小型探査機による地球一月圏における軌道制御技術の実証

宇宙航空研究開発機構・東京大学 船瀬 龍 氏 / 東京大学 川端 洋輔 氏 / EQUULEUS開発・運用チーム

JAXAと東京大学が共同開発した6U CubeSat EQUULEUS(エクレウス)は、2022年11月にNASAの大型有人ロケットSLSの初号機に相乗りし月遷移軌道へ打ち上げられた。水を推進剤とする推進系を用いて、打上げ直後の月スイングバイのための軌道制御を含めて、14回におよぶ高精度な軌道制御運用に成功。予定していた科学観測ミッション(地球プラズマ圏の撮像)にも成功し、フルサクセスを達成した。本成果は、推進剤に限られた超小型機であってもアルテミス計画等の将来の月近傍への輸送機会を活用した本格的な月惑星探査ミッションを可能とするものであり、超小型衛星の深宇宙進出を大きく促進することが期待される。

外務大臣賞

選考の結果、「該当なし」となりました。

問い合わせ先 >>

宇宙開発利用大賞事務局(一般財団法人日本宇宙フォーラム内)
TEL:03-6206-4902 メール:uchuriyo2025@jsforum.or.jp
https://www.s-riyoutaishou7.jp



第7回 宇宙開発利用大賞

バーチャルサイエンスコミュニケーター
北白川 かかぽ
Kakapo Kitashirakawa

第7回宇宙開発利用大賞
PRキャラクター

宇宙を拓く、新しい挑戦。

募集
期間

令和7年10月7日(火)まで

宇宙開発利用大賞は、宇宙開発利用の推進に多大な貢献をした優れた成功事例に関し、その功績をたたえることにより、我が国の宇宙開発利用の更なる進展や宇宙開発利用に対する国民の認識と理解の醸成に寄与することを目的とした表彰制度です。

宇宙開発利用大賞 検索



1 宇宙開発利用大賞とは

宇宙開発利用大賞は、宇宙開発利用の推進において大きな成果を収める、先導的な取り組みを行う等、宇宙開発利用の推進に多大な貢献をした優れた成功事例に関し、その功績をたたえることにより、我が国の宇宙開発利用の更なる進展や宇宙開発利用に対する国民の認識と理解の醸成に寄与することを目的とした表彰制度です。

2 受賞候補者の募集

(1)「宇宙産業ビジョン2030」を踏まえた対応

平成29年5月に宇宙政策委員会で取りまとめられた「宇宙産業ビジョン2030」では、宇宙開発利用大賞を抜本強化することが掲げられました。具体的には、従来は宇宙の開発利用に成功した優秀事例の表彰に止まっていたところを、その対象を拡大し、今後の成功を目指す有望なベンチャー企業等を対象に加えるなど、アイデア開拓を活性化させるとともに、優秀なアイデアについては事業化までつなげていくこととされました。こうした観点を踏まえ、第7回宇宙開発利用大賞においても引き続き、ベンチャー企業等の新規参入者からの応募を歓迎するとともに、こうした取り組みを積極的に評価することで、従来の発想にとらわれない、革新的なアイデアや新たな分野への取り組みなど、宇宙開発利用の手法・分野の拡大につながる事例の表彰機会を拡大します。

(2)地域特別賞の創設

第7回宇宙開発利用大賞では新たに「地域特別賞」を創設し、地域課題の解決、地域の活性化、魅力あるまちづくりにおいて宇宙開発利用を推進する観点から顕著な功績があったと認められる事例に対する表彰機会を拡大します。

3 募集対象

以下の事例（過去1年間の実績に限らない。）について、顕著な功績があったと認められる個人または団体に対して表彰します。

- ① 宇宙に関連し、商品・サービスを提供し、宇宙の利用拡大に成果を上げた個人または団体
- ② 宇宙に関連し、今後の宇宙利用の拡大に成果が期待できる独創的な宇宙利用の方法の考案等を行った個人または団体
- ③ 中小企業、大学等で、宇宙に関連し、優れた技術を保有し、我が国の宇宙産業の発展に貢献している個人または団体
- ④ 宇宙に関連し、優れた研究開発や知の創出を行い、宇宙の開発利用に貢献している個人または団体
- ⑤ 宇宙に関連し、教育、広報や地域のまちづくり等において、宇宙の開発利用に貢献している個人または団体
- ⑥ 宇宙に関連し、宇宙安全保障や防災・減災、国土強靱化、地球規模的課題等、国民の安心・安全や社会の課題解決等につながるものにおいて、宇宙の開発利用に貢献している個人または団体

なお、個人または団体が、国、地方公共団体または独立行政法人が定めた仕様に基づいて、単に国、地方公共団体または独立行政法人との契約に則り納入等したのみの事例は、顕著な功績があったものとは見なされません。

4 表彰の種類

種 類	件数	内 容
①内閣総理大臣賞	1件	極めて顕著な功績があったと認められる事例
②内閣府特命担当大臣(宇宙政策)賞	1件	特に顕著な功績があったと認められる事例
③総務大臣賞	1件	情報通信の発展、地域の振興等の視点から特に顕著な功績があったと認められる事例
④外務大臣賞	1件	平和で安全な国際社会の維持、良好な国際環境の整備、国際協力の推進等の視点から特に顕著な功績があったと認められる事例
⑤文部科学大臣賞	1件	科学技術・学術の振興等の視点から特に顕著な功績があったと認められる事例
⑥農林水産大臣賞	1件	農林水産分野における宇宙開発利用の推進の視点から特に顕著な功績があったと認められる事例
⑦経済産業大臣賞	1件	宇宙産業の振興の視点から特に顕著な功績があったと認められる事例
⑧国土交通大臣賞	1件	国土交通分野における宇宙開発利用の推進の視点から特に顕著な功績があったと認められる事例
⑨環境大臣賞	1件	地球環境保全、公害の防止、自然環境の保護など、環境課題解決の視点から特に顕著な功績があったと認められる事例
⑩防衛大臣賞	1件	防衛分野における宇宙開発利用の推進及び宇宙空間の安定的利用の視点から、防災を含む国民の安心・安全への寄与に特に顕著な功績があったと認められる事例
⑪宇宙航空研究開発機構理事長賞	1件	宇宙開発利用の技術の観点から顕著な功績があったと認められる事例
⑫選考委員会特別賞	3件以内	①～⑪の賞に該当しないものの独創的・挑戦的・先駆的な宇宙開発利用を推進する観点から顕著な功績があったと認められる事例
⑬地域特別賞	3件以内	①～⑪の賞に該当しないものの地域課題の解決、地域の活性化、魅力あるまちづくりにおいて宇宙開発利用を推進する観点から顕著な功績があったと認められる事例

5 選考方法

6 募集期間

7 募集方法

関係府省及び宇宙航空研究開発機構による予備選考を経た後、有識者等で構成される選考委員会による審査を経て、受賞者の選出を行います。

令和7年9月5日(金)～令和7年10月7日(火)

エントリーシートを宇宙開発利用大賞のホームページからダウンロードし、必要事項をご記入の上、専用応募フォームからご提出ください。なお、郵送での受付は行っておりません。

<https://www.s-riyoutaishou7.jp>



第6回 宇宙開発利用大賞 受賞事例

詳細については、受賞事例集(PDF)をご覧ください。



内閣総理大臣賞

衛星データを活用した土壌分析技術及び農地区画化技術の提供

サグリ株式会社 坪井 俊輔 氏

農業者の管理する農地の生育状況及び土壌解析を衛星データを用いて、スムーズに、広域に、より迅速に行うことが可能になるサービス「Sagri(サグリ)」。「Sagri」に搭載されたAIによる土壌解析モデルは、日本国内はもとより世界各地で収集された土壌データを基に開発され、衛星データを用いた土壌解析の精度において高い評価を頂いている。また、衛星データから農地区画を自動で生成するAI技術は、国内外の農業のデジタル化に欠かせないものとして活用が進んでいる。

内閣府特命担当大臣(宇宙政策)賞

小型SAR衛星コンステレーションによる国内外への事業展開

株式会社Synspective 新井 元行 氏

2018年の創業からわずか2年で日本初の小型SAR衛星による画像取得に成功、その後、2022年3月に実証2号機、同年9月に初の商用実証機と3機全てのデータの生成、画像化、販売と、実用化までの一連のプロセスを成功させ事業として収益基盤を完成させた。2022年度からは、内閣府が推進する「小型SARコンステレーションの利用拡大に向けた実証」でさまざまな省庁の実利用に向けSARデータ、ソリューションを提供するなど着実に実利用へ進んでいる。

総務大臣賞

宇宙と国産通信技術を用いた森林火災早期検知システムの国際展開

ソニーグループ株式会社 木村 学 氏、堀井 昭浩 氏

東南アジアでは、野焼きが原因で森林火災が多発しており、地上生態系の破壊や煙害による住民健康被害が大きな社会問題となっている。被害の軽減には早期発見と早期消火が重要である一方で、山岳・森林地帯は既存の通信網や電力網の範囲外であり、火災を検知可能なセンサーを設置したとしても、その情報を速やかに通知することができない課題があった。これに対し、ソニーは、国際宇宙ステーションの日本実験棟「きぼう」の船外実験プラットフォームに設置した、独自の低消費電力広域通信規格(LPWA)であるELTRES™対応の無線実験装置を活用することで、既存のインフラではカバーできない場所でも、データの長距離伝送が可能にする仕組みを提案。タイの森林に設置したセンサーが火災初期の煙の粒子をとらえた電波を同実験装置で受信し、地上に通知する一連のプロセスの検証を通じて、これらの技術が従来の衛星からのリモートセンシングでは捉えることが困難だった森林火災をとらえ、被害軽減に有益であることを示すことができた。

文部科学大臣賞

高専発の超小型衛星開発を通じた次世代宇宙人材育成の展開

高知工業高等専門学校 今井 一雅 氏

国立高専初となる超小型衛星「KOSEN-1」が高専連携で開発され、打ち上げに成功した。これを出発点として、高専衛星シリーズとなるKOSEN-2R衛星とKOSEN-3衛星の打ち上げに向けて、継続的な高専連携による衛星開発が行われている。この衛星開発を高専における究極のものづくり教育として位置付け、幅広い学生を対象とした宇宙人材育成に関する教育プログラムを立ち上げ、広範囲かつ高い専門性を持つ次世代宇宙人材の育成を展開している。

農林水産大臣賞

衛星×AIを活用した「MiteMiru森林」の提供

株式会社パスコ / 株式会社パスコ 島崎 康信 氏、小谷野 開多 氏

戦後植林された森林資源が伐採適期に差し掛かり、全国的に伐採が進む状況にある。このような中、森林資源の管理を担う自治体では、伐採やその後の造林に際し必要となる森林法に基づく届出等の内容と、実際の現地とを照合・確認する負担が増えている。「MiteMiru森林(森林変化情報提供サービス)」は衛星画像とAI判読技術等を利用し「伐採地」や「再造林地」等を継続的にモニタリングし、自治体職員の業務負担軽減を可能とするサービスであり、サービス開始以降31の自治体で採用されている。

経済産業大臣賞

宇宙ビジネスの全体促進と産業エコシステム形成にむけた取り組み

一般社団法人SPACETIDE

2015年の創設以来、業界横断活動を実施

- ①多様な人を繋ぐ
 - ・ SPACETIDE Conference:日本発となる国際宇宙ビジネスカンファレンスを年次開催
 - ・ Space Industry Workshop:アジア太平洋宇宙機関会議初となる産業ワークショップを年次開催
- ②業界共通課題を解く
 - ・ COMPASS:宇宙ビジネスの進展度合いを纏めたレポートを発刊
 - ・ Career Connect:宇宙業界への転職・就職を促進するイベントを実施
- ③新たなビジネスを創る
 - ・ AXELA:日本初の宇宙起業家支援プログラムを推進
 - ・ Space-Enabled World:異業種と宇宙業界を繋ぐワークショップの実施